

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 為替週間展望 = ドル円は上昇基調が継続か

[ 3月28日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		3月21日～3月25日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	119.07	122.44(25)	119.04(21)	121.83	+2.66
ユーロ・ドル	1.1034	1.1070(21)	1.0961(22)	1.1028	-0.0023

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,149.84	+1322.41	日本10年債利回り	0.240	+0.031
ダウ平均株価	34,707.94	-46.99	米10年債利回り	2.372	+0.222

=====

<来週の主要経済統計等>

- 28日 バイデン米大統領が2023年度(2022年10月-2023年9月)の  
予算教書を発表
- 29日 日本2月有効求人倍率、日本2月雇用統計  
豪2月小売売上高  
米1月住宅価格指数、米1月S&Pケースシラー住宅価格指数  
米3月消費者信頼感指数
- 30日 日本2月小売業販売額  
スイス3月KOF先行指数  
独3月消費者物価指数速報値  
米3月ADP雇用統計  
米第4四半期国内総生産(GDP)確報値
- 31日 日本2月鉱工業生産指数速報値  
豪2月住宅建設許可件数  
中国3月製造業購買担当景気指数  
英第4四半期国内総生産(GDP)確報値  
独3月雇用統計  
ユーロ圏2月雇用統計  
米2月個人所得・支出、米新規失業保険申請件数  
米3月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 日銀短観(3月調査)  
中国3月財新製造業購買担当景気指数  
スイス3月消費者物価指数  
独3月製造業PMI確報値、ユーロ圏3月製造業PMI確報値  
英3月製造業PMI確報値  
ユーロ圏3月消費者物価指数、スイス2月小売売上高  
米3月雇用統計  
米3月製造業PMI  
米3月ISM製造業景況指数、米2月建設支出

【前回のレビュー】ドル円はドル買い円売りのスタンスが継続して、16日に一時119.12付近まで上昇して、2016年2月以来、6年1か月ぶりの高値圏まで上昇した。ドル円は底堅いものの、テクニカル面での過熱感も強く、118円台を中心とするもみ合いが続くとした。

【米国での利上げペース加速観測強まる】

3月15～16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、FOMCメンバーによ

る政策金利見直し（いわゆるドットチャート）では、今年末の政策金利の予想中央値は1.875%となり、今年には年末までに7回の利上げを見込むこととなった。パウエル議長は記者会見で、経済の強さやインフレ率の高さを考慮すると今後の会合でも利上げを続けるのが適切と述べ、バランスシートの縮小は早ければ5月の会合で開始を決定するとした。

FOMCでのタカ派姿勢に加えて、21日の講演でパウエル議長は0.25%を超える大幅利上げの可能性に言及した。また、このところはパウエル議長以外のFOMCメンバーからも高すぎるインフレ率への警戒感と一段の利上げを容認、ないしは支持する発言が相次いでいる。一方で、日銀は18日の金融政策決定会合の結果発表で緩和姿勢の継続を表明しており、日米の金融政策の違いがドル買い円売りの動きにつながっている。

利上げペースが今後加速するとの観測から、米10年債利回りも23日に一時2.4%台に乗せるなど上昇傾向にあり、ドル高基調が継続している。ドル円は22日に120円の節目を超えると、その日のうちに121円に一時乗せた。その後も上昇基調が継続している。24日には2016年1月29日の高値121.69を上抜き、122円台半ばまで上昇した。

ボリンジャーバンド+2σに沿って大きく上値を伸ばしてきたことで、テクニカル的な過熱感が高まりつつある。ストキャスティクスやRSI（相対力指数）は買われすぎ圏の水準に位置しており、修正安に転じる可能性もある。

3月28日の週には4月1日に3月の米雇用統計やISM製造業景況指数など、注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。米国の雇用に加えて他の経済指標でも堅調な流れが続くようなら、一段とドル高に振れる可能性が高まり、ドル円は上昇基調が継続しそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、119.50～124.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、29日に日本2月有効求人倍率、日本2月雇用統計、米1月住宅価格指数、米1月S&Pケースシラー住宅価格指数、米3月消費者信頼感指数、30日に日本2月小売業販売額、米3月ADP雇用統計、米第4四半期国内総生産（GDP）確報値、31日に日本2月鉱工業生産指数速報値、米2月個人所得・支出、米新規失業保険申請件数、米3月シカゴ購買部協会景況指数、1日に日銀短観（3月調査）、米3月雇用統計、米3月製造業PMI、米3月ISM製造業景況指数、米2月建設支出などがある。

【ユーロドルは1.1000ドル付近での振幅か】

米国での利上げペースの加速観測などにより、ドル買いの流れとなっており、ユーロドルはやや上値の重い動きとなっている。もっともユーロ円がドル円に追随して堅調に推移していることもあり、ユーロドルは大きな下げは見せていない。

3月24日に発表された3月の独製造業PMI、独非製造業PMI、ユーロ圏製造業PMI、ユーロ圏非製造業PMIがいずれも事前予想を上回る結果となっており、ユーロドルの下支え要因となっている。ロシアとウクライナの停戦交渉は不透明でユーロドルの上値を抑える要因となりそうだ。こうした中、ユーロドルは1.1000ドルを挟んで一進一退の動きが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0850～1.1200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日に豪2月小売売上高、30日にスイス3月KOF先行指数、独3月消費者物価指数速報値、31日に豪2月住宅建設許可件数、中国3月製造業購買担当景況指数、英第4四半期国内総生産（GDP）確報値、独3月雇用統計、ユーロ圏2月雇用統計、1日に中国3月財新製造業購買担当景況指数、スイス3月消費者物価指数、独3月製造業PMI確報値、ユーロ圏3月製造業PMI確報値、英3月製造業PMI確報値、ユーロ圏3月消費者物価指数、スイス2月小売売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。